

医事紛争のしおり

医療トラブルにならないために

岡山県医師会常任理事 榊 原 敬

紛争とは、個人や集団の間で、対立する利益や価値をめぐる起きる行動や緊張状態とされています。医事紛争では、医療側と患者・家族の側に立場が分かりますが、患者や家族がどういったことを望んでいるかを知ることが大切です。とくに病院が事故当事者を守ろうと配慮したことで、患者や家族に隠しているようにしか見えないとか、謝罪の機会を失わせているのではないかと問われては意味がありません。

また、患者と家族が治療における期待に背く結果は、すべて医療ミス・医療事故であるといった誤解も問題です。例えば、手術ではどんな場合であっても合併症はつきものであり、メリットとデメリットを勘案して治療方針を決める必要があります。そのために治療の選択肢を挙げることは大切です。医師が一方的に治療方針を決め、選択肢を狭め治療法を誘導することは認められません。また、合併症においても稀有なものは別として、国家試験レベル・研修医レベルの内容については説明責任があります。ものには言い方があり、過度に強調しては治療に消極的になる懸念があり、相手のレベルに合わせたわかりやすい説明が求められています。

救命する手段が手術しかない場合、避けられない合併症が発生することがあります。合併症も時間的経過のなかで軽快する場合はまだしも、永続的な障害が残る場合がしばしば問題となります。患者や家族のなかには、こうした時の理解が十分得られないことがあります。医学的には、他に治療法がない場合、それに伴う合併症は不可避とされ免責されます。このとき、術前にきちんとポイントを押さえて説明しておかないと、説明がなかったとして賠償責任を負う羽目になるので注意が必要です。

また、手術に際し、術前にはわからなかった併存疾患が見つかる場合があります。この場合、悪性疾患であれば切除し、事後説明を行うし、良性疾患であれば手をつけずに手術を終えることがこれまでの裁判事例で示されています。このように事前説明がなくとも、対応すべき例外的な事項が存在します。大事なことは医師が行いたい治療ではなく、患者の視線や考え方に立ち治療方針に納得してもらうことです。とくに近年、高齢者夫婦や独居老人が増え、息子や娘は東京や大阪など大都市にいて家族への説明が難渋する事例が増えています。大きな治療でなければ高齢者夫婦や独居老人だけで構わないと言われますが、一旦トラブルが発生すると、事前に説明を受けていない関係者が出てきて揉めることになります。手術承諾書は必要書類ですが、法律的に役に立つ代物ではありません。むしろわかりやすい説明用紙の交付など術前の対応が重要になります。口頭説明と同意ではなく、説明用紙や治療に関する資料を手渡すことが自分の身を守ることに繋がります。

医療訴訟は年間約800件、そのうち約半数は和解、審理期間は平均24カ月、原告の勝訴率は約20%とされています。裁判となれば時間がかかり、それなりに経費も必要となることから、訴訟を回避する対策が重要です。医療訴訟では、通常の訴訟より時間が長くなる傾向が見られます。

日本医療安全機構（医療事故調査・支援センター）から、これまで医療事故再発防止に向けた提言が出されています。自分の診療領域に関するところは御目通し頂ければ幸いです。

す。どうして事故が発生したのか原因を解析するよりも、事故に繋がるリスクをいかに回避するかが重要です。

- 第1号 (2017年3月) 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析－第1報
- 第2号 (2017年8月) 急性肺塞栓症に係る死亡事例の分析
- 第3号 (2018年1月) 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析
- 第4号 (2018年6月) 気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析
- 第5号 (2018年9月) 腹腔鏡下胆嚢摘出術に係る死亡事例の分析
- 第6号 (2018年9月) 栄養剤目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析
- 第7号 (2019年2月) 一般・療養病棟における非侵襲的陽圧換気(NPPV)及び気管切開下陽圧換気(TPPV)に係る死亡事例の分析
- 第8号 (2019年4月) 救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析
- 第9号 (2019年6月／2020年2月更新) 入院中に発生した転倒・転落による頭部外傷に係る死亡事例の分析
- 第10号 (2020年3月) 大腸内視鏡検査等に係る死亡事例の分析
- 第11号 (2020年3月) 肝生検に係る死亡事例の分析
- 第12号 (2020年11月) 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析
- 第13号 (2021年3月) 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析
- 第14号 (2021年7月) カテーテルアブレーションに係る死亡事例の分析
- 第15号 (2022年1月) 薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析
- 第16号 (2022年3月) 頸部手術に起因した気道閉塞に係る死亡事例の分析
- 第17号 (2023年9月) 中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例に分析－第2報(改訂版)
- 第18号 (2023年9月) 股関節手術を契機とした出血に係る死亡事例の分析
- 第19号 (2024年2月) 肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析
- 第20号 (2024年12月) 血液検査パニック値に係る死亡事例の分析